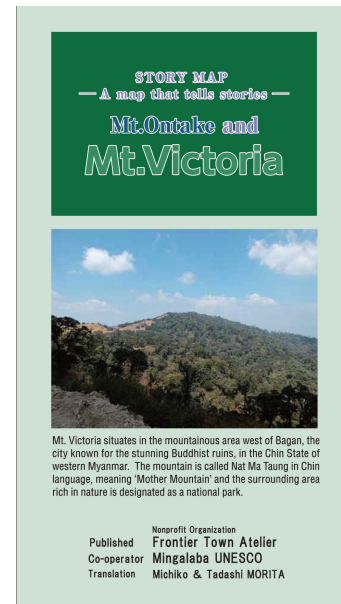
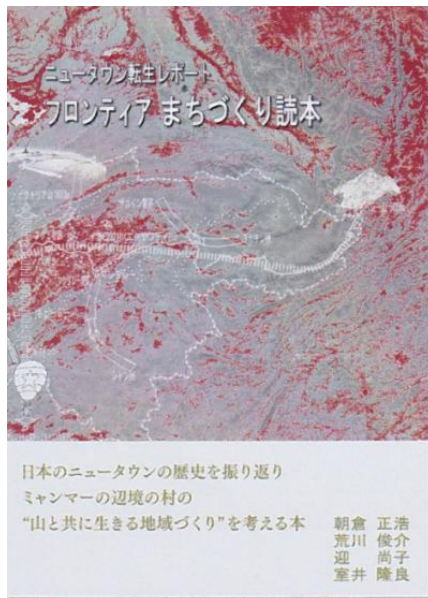


## 1. ふろたん工房の出版事業

「少し遅れた新春号です」という見出しで今年の3月3日のひな祭りの日に発信したふろたん通信46号は、ふろたん工房広報センターが出版した最初の本がNPO法人の設立手続き中に発行した「フロンティアまちづくり読本」、NPO法人が頭に着いた2冊目が地図のカタチで日本語版と英語版セット販売の本「御嶽山とビクトリア山」、



3冊目が1973年3月の日本住宅公団ワングル同好会誕生から2021年2月のミャンマー軍事クーデターまでを年表にした「ふろたん年表2021」、それぞれ違う雰囲気のある3冊ですと書き、新出版事業として小説「その日から…」が4冊目の本として出版準備中ですと書いていました。

そして今年の2月26日付のふろたん技研レポートVol.22「山の本を並べて瞑想に耽る」（新追加版）の中では、小説「その日から」の発行を準備中、楽しみにお待ちくださいと書いています。



## 2. 「その日から…」

ふろタン工房スタート時からのメンバー青柳志郎さんから、4年前の2019年10月、市民の森づくりをテーマにした小説の原稿と一緒に私宛に送られてきた手紙には、「主人公が女子高生の妄想小説、第1部が終わりやっと第2部になったところ、まだまだ続きます」と書かれていました。

まちづくりの本・山登りの本… 国内外を問わずに取り組んできたふろタン工房ですが、小説の世界にまで踏み込むとは…。

その後暫く連絡も途絶えたままになり2022年2月1日青柳志郎さんご逝去、ふろタン技研レポート「山の本を並べて瞑想に耽る」（新追加版）は、青柳さんへの追悼レポートですと書いて掲載することになりました。

2022年12月1日にご家族から志郎さんが書きためた数多くの文章のファイルが送られてきました。仕事のこと・家族のことなど沢山の想いが書かれた中に「夢」と題した2021年10月9日の日付を書いた文章がありました。これを読んで「第1部」と「第2部」に続く私が待っていた文章を、亡くなる前に青柳さんが「夢」に載せてそっと届けてくれたと思いました。

「森づくりを舞台にした女子高生が主人公の妄想小説です」と言って残してくれたのが2023年5月に出版された4冊目の本「その日から…」です。

表紙には「北海道北広島市の森づくりを夢みる乙女の物語」と書かれています。

目次は、第一部 森づくりグループ『メイプル』  
第二部 『森を知る・森に学ぶ・森で遊ぶ』  
第三部 メイプルの定例活動計画  
そして「夢」 になっています。

最終章 そして夢 は、ミズナラの植樹地の地面に寝転がって夢みた乙女の短い物語です。



このレポート「森づくりを夢みる乙女の物語」が、ふろタン工房のホームページの技研レポートコーナーに掲載される頃には、ふろタンメンバーは本の販売にも取り組んでいると思います。

販売促進を応援する特別クイズです！ 198ページの本のどこかに私も登場しています。どのページが分った方は連絡下さい。正解者には特別サービスがありますよ！